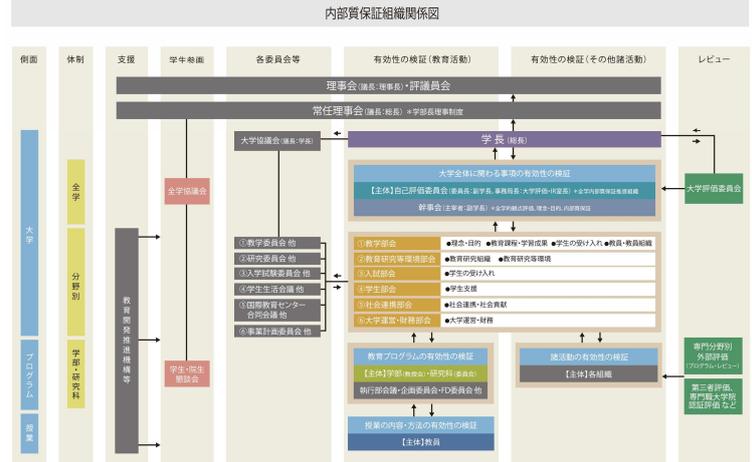


# モニタリングとレビューに基づく内部質保証システム

鳥居 朋子 (立命館大学 大学評価・IR室 副室長/教育開発推進機構 教授)  
 仲 真紀子 (立命館大学 大学評価・IR室 室長/総合心理学部 教授)  
 増田 至 (立命館大学 事業計画課 課長) 金剛 理恵 (立命館大学 事業計画課 課長補佐)

## 立命館大学の内部質保証システムの特長

- 全学、教育プログラム (学部・研究科等)、授業という重層的な組織構造
- 教学、教育研究等環境、入試、学生、社会連携、大学運営・財務の分野・領域ごとに部会を設け内部質保証システムを推進
- 全学協議会等を通じた学生のニーズを反映させる仕組みの制度化
  - 点検・評価に関わる中期方針の策定 (2012, 2019)
  - 全学部・研究科で専門分野別外部評価の実施 (2013~2016, 2019~2023)
  - 認証評価、外部評価等の指摘事項の改善確認 (2014~)
  - 大学評価委員会の開催 (2016)
  - 内部質保証システムの再整備 (2017)
    - 「立命館大学内部質保証方針」を策定し、内部質保証推進体制を構築
    - 学長からの改善実施要求 (2017~)
    - 第3期機関別認証評価の受審 (2018)
- ★ 内部質保証についての「長所」(概要)
  - 3階層と各委員会が連携した内部質保証体制の構築
  - 学部・研究科の自己点検・評価結果に基づく改善と教育の質保証
  - 学部・研究科での専門分野別外部評価や大学全体の外部評価
  - 学生による参画を制度化
  - 内部質保証システムの適切性や客観性を担保



## 2019年度以降の課題

### ● 認証評価指摘事項への対応

### ● 中期方針 (2019~2025) の策定

- 中期計画や事業計画との連携
- **モニタリングとレビュー**
- IR機能の強化・充実
- 全学協議会 (学生参画の仕組み) の開催
- 専門分野別外部評価の第2サイクル
- 専門職大学院認証評価・第三者評価等の受審
- 大学評価委員会 (大学レベルの外部評価) の開催
- 第4期機関別認証評価の受審

表. 自己点検・評価に関わる中期日程

年度	自己点検・評価		年度別テーマ	専門分野別外部評価	大学評価委員会	認証評価機関別	認証評価専門職大学院等
	モニタリング	レビュー					
2019	●			●			
2020	●			●			経営管理
2021	●			●			教職
2022	●			●			改善報告 法務
2023	●	●		●	○		
2024	●	●					実学教育
2025	●						経営管理

\* ●: 実施、○: 実施予定

## 2019年度、大学評価・IR室を開設!

- 2005年3月に設置した大学評価室を再編
- 自己評価委員会事務局
- 全学的IRの展開
  - IRに関する学内の実態聞き取り調査
  - IRページの豊富化
  - 各部会へのデータ提供
  - 大学基礎データ等の作成
  - 中期計画の検証レポート
  - IR支援策、データ基盤整備の検討



キャラクター: 天狗先生



大学評価・IR室HP  
<http://www.ritsumei.ac.jp/assessment/>

## 2019年度以降の取り組み (モニタリングとレビューに基づく自己点検・評価)

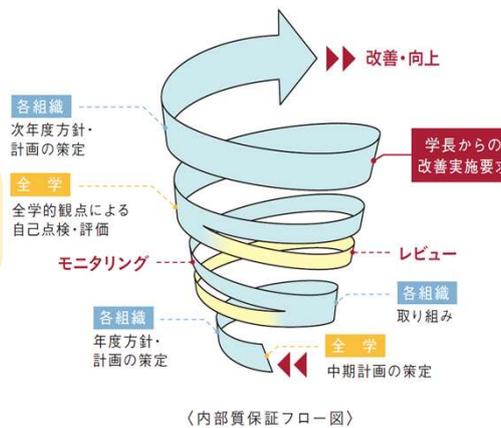
- 毎年度実施する効率的な点検・評価
- 当該年度の全学の現状を総括し「長所・特色」や「問題点」を整理
- 「問題点」には短期的な改善計画と取り組みの方向性を記載
- 各部会が作成

### モニタリング

### ● 各部会によるモニタリング



- 改善状況の確認 (機関別認証評価、学長からの改善実施要求、専門分野別外部評価、専門職大学院認証評価・第3者評価等)
- 大学基礎データ、基礎要件確認シート



- モニタリングによって得られたデータや点検・評価結果等を踏まえた総合的な点検・評価
- 当該年度のテーマに関する本学の取り組みを総括し、成果や課題を整理
- 中長期的な課題を抽出
- 自己評価委員会幹事会が作成

### レビュー (年度別テーマに基づくレビュー)

### ● 幹事会が全学的な観点で作成



## 2019年度以降の成果と課題

### モニタリング結果

- 各章の特徴や課題をコンパクトに表現することにより、自己点検・評価報告書作成を効率化 (頁数は2018年度比で1/3程度に圧縮)
- 効率化による各部会の負担軽減
- 大学基準に加え、事業計画や中期計画に関する指標や目標水準を用い、多角的な側面から点検・評価
- 「長所・特色」「問題点」を一覧化し、可視化 (今後は経年推移をモニタリング予定)
- 「問題点」には、改善計画および取り組みの方向性を明記することで、確実な改善・向上を確認

### レビュー結果

- < 2019年度のテーマ >
  - 学習成果の把握・評価・活用の現状と今後の課題
  - テーマに関する本学のこれまでの取り組みやその成果を整理し、到達点を確認。今後の中期的な課題 (アセスメント・ポリシーの策定等) を抽出。
- < 2020年度のテーマ >
  - 立命館大学における社会連携・社会貢献の現状と今後の課題
  - 部署の垣根を超えたレビューWGを設置し、本学全体での現状把握と到達点を確認。今後の中期的な課題 (全学的なビジョンの策定等) を抽出。

### < モニタリングとレビューによる成果 >

1. モニタリングによる点検・評価を効率的に行うことで時間的な余裕が生まれ、重要課題についてレビューを並行して実施することが可能となった。
2. モニタリングによる単年度の課題とレビューによる中長期的な課題の抽出ができた。

### < 今後の課題 >

1. 次年度以降のモニタリングとレビューによる点検・評価の定着と安定的な運用
2. モニタリングとレビューの連携による効果の確認 (複数年度経過後の効果検証)